

レベル	科目名	担当者	曜日時限	教室	目標	内容	テキスト	成績評価法
2	日本語2総合A	横山 和子 (よこやま かずこ)	月曜・3限	N313	日本社会の理解につながる文章を読み、読解力をつけるとともに、テーマにそって自分の意見を論理的に表現できるようになる。	「好きな言葉」「教育」「外国人」の3つのテーマで、図書、新聞記事、統計資料などを読み、現代日本社会についての理解を深めます。内容を予測しながら文章を読む力、読みとった内容を日本語で表現する力、物事に対する自分の意見を論理的に述べる力をつけることを目指します。 ●テーマごとに、発表やディスカッション、インタビューなどの活動を行います。 ●扱うテーマは23年秋学期とは異なるので、25年秋学期の受講者にとって学習内容が重なることはありません。	プリント配布	授業への積極性50%、活動(内容・日本語)50%
	日本語2会話A	坂田 睦深 (さかた むつみ)	火曜・2限	N302	自分の考えや気持ちを伝(つた)えることができるようになる。具体的(ぐたいてき)なまとまった談話(だんわ)が理解(りかい)でき、抽象的(ちゅうしょうてき)な内容についても説明、主張できるようになる。	授業の前半では、自己紹介、インタビュー、ショートスピーチを行う。クラス人数が多い場合は、小グループでの討論(授業)→個人スピーチで行う場合もある。課題の提出を重視する。後半はディベート、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に行う。以上のアカデミックな内容に加え、4つのテーマ(誘う、許可、謝罪、不満を伝える)でロールプレイも行う予定である。	『もっと中級 日本語で挑戦!スピーチ&ディスカッション』(にほんごの凡人社)+プリント	授業(じゅぎょう)への参加度(さんかど)30%、課題(かだい)60%、プレゼンテーション10%
	日本語2作文A	荒井 直美 (あらい なおみ)	水曜・2限	N301	自分の意見を述べ、待遇表現が使えるようになる。	書き言葉、敬語、書き方など、日本語の文章を書くために必要なルールや表現を学びながら、文章を書く練習をします。授業では、みなさんが書いた文章をクラスメイトと読み合ってコメントし合ったり、話したりします。	由井紀久子・大谷つかさ・萩田朋子・北川幸子『中級からの日本語プロフィエーション ライティング』凡人社	授業参加度(出席・授業態度)50%、課題50%
	日本語2文法A	新谷 あゆり (しんや あゆり)	金曜・1限	N305	中級後半～上級の文法項目を習得する。	中級から上級の表現文型を機能別に学ぶ。練習問題や作文などを行う。	プリント配布	参加度20%、課題20%、試験60%
	日本語2漢字A	増田 里香 (ますだ りか)	火曜・1限	N201	750字程度の漢字とその漢字を使った言葉を学習し、運用できるようにする。	漢字の意味とその漢字を使ったことばの意味と使い方を学ぶ。今学期は、教科書の偶数課(第2課、第4課、第6課、第8課、第10課)を2回で1課学習していく。クラスでは漢字から語彙を広げたり、漢字語彙を使った文を作ったり、グループやペアで調べて発表したりする活動を行う。また、毎回、語彙や漢字のクイズを行う。	『Intermediate Kanji Book vol.1』凡人社[改訂版 第3版]	出席・参加度15%、課題・発表25%、クイズ40%、期末テスト20%
	日本語2講読A	斎藤 敬太 (さいとう けいた)	金曜・2限	N103	具体的な文章内容で、ある程度の長さの文章が読めるようになる。	様々なテーマ、媒体、対象、地域の文章を読み、多様な日本語を理解する。グループワークやディスカッションも行う。	プリント配布	授業参加度40%、課題30%、発表30%

2	日本語2聴解A	小池 恵己子 (こいけ えみこ)	木曜・1限	N305	具体的なまとまった談話が理解でき、抽象的なものも流れが理解できるようになる。	まとまった内容の話、さまざまな会話を聞き取る練習をします。「必要な情報を聞き取る」「話し手の言いたいことを予測する」「だいたいの内容をつかむ」「話の流れを意識して聞く」などの練習をするとともに、ことばや表現、イントネーションの違いも学びます。また、話を理解するだけでなく、声に出して言う練習もします。	プリント配布	テスト40%、ことば・表現クイズ/聞き取り20%、宿題・提出物20%、授業への参加度(グループ活動、出席など)20%
	日本語2特別演習A [マンガで学ぶ日本語]	宮本 典以子 (みやもと ていこ)	水曜・1限	N313	話し言葉やマンガ特有の表現が理解できるようになる。	日本のマンガの鑑賞(かんしょう)を通して、特に話し言葉を実践的に学ぶ。学園だけでなく社会、ファンタジー等さまざまなジャンルの作品を扱う予定。言語表現はピア活動等で学ぶ。 ・授業の始めに「マンガ多読タイム」を取る。読後、記録シート記入。 ・また作品ごとに、課題シートを提出。 ・日本のマンガやアニメに関する発表&交流を1回、またその他にもグループでの交流活動を数回行う予定。	プリント配布	提出物(課題シート、多読シート等)40%、授業参加度(ピア活動等)40%、発表・交流活動20%
	日本語2特別演習A [ビジネスで学ぶ日本語]	近藤 智子 (こんどう ともこ)	木曜・2限	N405	ビジネス場面で用いられる報告や説明の流れを理解できる。 相手に伝わりやすい形で表現できる。 基本的な職場会話の要点を把握できる。	ビジネスの場面を題材に、「きく・よむ・まとめる・かく」力を養う。企業紹介や報告文、連絡文などを素材とし、話や文章の流れを整理しながら、分かりやすく伝える練習を行う。企業紹介や業界資料などを用い、情報を整理し、報告・説明する活動を行う。	プリント配布(企業紹介動画・資料・業界資料・ビジネス文書・メール例)	積極的な授業参加…50%(内容整理への参加、発言、コメント、取り組み姿勢など)、課題提出…30%(報告文・要約文など)、発表…20%、※期末試験は実施しない。
	日本語2/3特別演習A [多読]	桂 千佳子 (かつら ちかこ)	金曜・3限	N313	「多読TADOKU」の特徴を理解し、実践することで、日本語をより母語に近い使い方ができるように目指す。	「勉強するモード」から「自分のことばとして使うモード」への切り替えができるように目指す。 ①単語の意味や文法を気にしないで、「書かれている内容」について自分の中で対話できるように読む。 ②同じ場面でも、一人一人の理解が多様であることが実感できるよう、読み物などを通じた対話のワークを行う。 ③学期末プロジェクト「発表」:「勉強するモード」と「自分のことばとして使うモード」のちがいについて、自由に発表する(ストーリー・動画・ゲーム・音楽・絵などの創作・今学期の取り組みへの感想・読み物紹介など、なんでもよい)	教室に読みものを設置 オンライン読み物	読書記録の提出 40%、平常時の多読への取り組み30%、学期末プロジェクト30%